

## 検討の主要課題

### 課題1 自然再生の必要性

大台ヶ原においては、シカによる被食その他の様々な要因により、樹冠構成木の枯損や天然更新の阻害などの現象が生じ、森林生態系の衰退が進行している。この現状や今後予想される状況に対処するため、国立公園としての景観的学術的価値や利用の面だけでなく、当該地域本来の植物相や動物相を含む生物多様性の保全の観点から、大台ヶ原において自然再生に取り組む必要性を明らかにし、かつ、共通認識を醸成したい。

#### (ポイント)

- 大台ヶ原は氷河時代から現在までの気候変動の生き証人であるトウヒ林や、まとまった面積の太平洋型ブナ林など紀伊半島本来の森林生態系を良く残している。
- このまま森林が衰退しミヤコザサ草原に変化することは、紀伊半島の自然を特徴づける森林生態系のひとつを失い、紀伊半島の生物多様性が劣化することになる。
- これら衰退の原因には、さまざまな人為的影響が関係していると考えられること、及び衰退の悪循環に陥っていると考えられることから、自然再生を実施することにより、生物多様性をできるだけ保全する必要がある。

### 課題2 自然再生の目標

生物多様性の保全の観点から、大台ヶ原及びその周辺地域（台高山脈から大峰山系にかけての一帯）の特徴を整理するとともに、その自然環境を保全していく上で必要な広がりやあるべき姿を明らかにし、その中で大台ヶ原の位置づけを行うことにより、大台ヶ原の自然再生の目標を具体的に明らかにしたい。

更にこの過程において、大台ヶ原だけでなく、その周辺地域における自然再生の必要性や課題についても、できうる限り明らかにしたい。

#### (ポイント)

- 大台ヶ原の周辺地域においては、大峰山系にも（課題1のポイントで述べたような特徴を有する）自然林が比較的まとまって存在しているが、両者の間は伐採され、人工林あるいは伐跡群落化し、それぞれ孤立している。
- 大台ヶ原の森林生態系を再生するためには、例えばクマの地域個体群を支えることができる程の、周辺地域を含めた相当な面積の森林に着目する必要がある。
- 大台ヶ原の森林生態系をどこまで修復するかという目標の設定は、自然的条件のみならず、社会的要請や技術的可能性などにも関係してくる。このため、これらに関する情報を地域の関係者等が共有し、目標についての合意形成を図っていくことが重要である。

### 課題3 自然再生事業の展開方向

大台ヶ原における自然再生の目標を達成するための自然再生事業の進め方と具体的方策を、これまで環境省で実施してきた森林保全対策への評価も加えたうえ、明らかにしたい。その際、広く一般国民から意見を求めるこことや、自然再生のための具体的な活動に地域住民等の参加を求める方策についても位置づけたい。

また、前述の対策は自然再生事業として環境省が中心となって実施すべきものについて検討するものであるが、それだけに止まらず、環境省所管地外や国立公園区域外において講すべき対策であって環境省が手段を有しないものについても、実施主体を特定せずに検討を行い、新たな施策展開を模索する契機としたい。

#### (ポイント)

- 自然再生事業においては、自然という複雑な系を対象とすることから、事業の実施結果が不確実である。このため、事業を行うに当たっては、十分な調査を行うとともに、予測される結果について仮説を立てモニタリングにより検証することで、必要な修正を加えていく順応的管理の手法が必要不可欠である。
- 紀伊半島の生物多様性保全の観点からは、大台ヶ原及びその周辺地域を含む広がりのなかに、コアとなる複数の紀伊半島本来の特徴を有する森林生態系が維持されるとともに、それらをつなぐ森林が確保することが必要である。このため、それぞれの森林において、その機能が果たされるような対策を講ずることが求められる。

## 検討の主要課題

### 課題 1 自然再生の必要性

大台ヶ原においては、シカによる被食その他の様々な要因により、樹冠構成木の枯損や天然更新の阻害などの現象が生じ、森林生態系の衰退が進行している。この現状や今後予想される状況に対処するため、国立公園としての景観的学術的価値や利用の面だけでなく、当該地域本来の植物相や動物相を含む生物多様性の保全の観点から、大台ヶ原において自然再生に取り組む必要性を明らかにし、かつ、共通認識を醸成したい。

#### (ポイント)

- 大台ヶ原は氷河時代から現在までの気候変動の生き証人であるトウヒ林や、まとまとた面積の太平洋型ブナ林など紀伊半島本来の森林生態系を良く残している。
- このまま森林が衰退しミヤコザサ草原に変化することは、紀伊半島の自然を特徴づける森林生態系のひとつを失い、紀伊半島の生物多様性が劣化することになる。
- これら衰退の原因には、さまざまな人為的影響が関係していると考えられること、及び衰退の悪循環に陥っていると考えられることから、自然再生を実施することにより、生物多様性をできるだけ保全する必要がある。

### 課題 2 自然再生の目標

生物多様性の保全の観点から、大台ヶ原及びその周辺地域（台高山脈から大峰山系にかけての一帯）の特徴を整理するとともに、その自然環境を保全していく上で必要な広がりやあるべき姿を明らかにし、その中で大台ヶ原の位置づけを行うことにより、大台ヶ原の自然再生の目標を具体的に明らかにしたい。

更にこの過程において、大台ヶ原だけでなく、その周辺地域における自然再生の必要性や課題についても、できうる限り明らかにしたい。

#### (ポイント)

- 大台ヶ原の周辺地域においては、大峰山系にも（課題 1 のポイントで述べたような特徴を有する）自然林が比較的まとまって存在しているが、両者の間は伐採され、人工林あるいは伐跡群落化し、それぞれ孤立している。
- 大台ヶ原の森林生態系を再生するためには、例えばクマの地域個体群を支えることができる程の、周辺地域を含めた相当な面積の森林に着目する必要がある。
- 大台ヶ原の森林生態系をどこまで修復するかという目標の設定は、自然的条件のみならず、社会的要請や技術的可能性などにも関係してくる。このため、これらに関する情報を地域の関係者等が共有し、目標についての合意形成を図っていくことが重要である。